News Release

2026年 11月 13日
ギークス株式会社（証券コード：7060）

ギークスグループのシードテック、Neoセキュリティ社と業務提携し、中小企業のセキュリティ対策を目的とした「デジショク・セキュリティ」のサービスを開始

ギークスのグループ会社であるシードテック株式会社（本社：東京都渋谷区、代表取締役社長：高原 大輔、以下 シードテック）は、株式会社Neoセキュリティ（本社：東京都港区、代表取締役：高岡 哲也、以下 Neoセキュリティ）と業務提携したことをお知らせいたします。本提携を通じ、“DXの右腕”となる即戦力型デジタル実務人材を提供する「デジショク」の新サービスとして、中小企業のセキュリティ体制を構築する「デジショク・セキュリティ」の提供を開始し、セキュリティ診断からセキュリティ対策、SCS評価制度への対応まで、現場伴走でワンストップで支援してまいります。



業務提携の背景

シードテックはこれまで、中小企業に即戦力のデジタル実務人材を提供する「デジショク」を通じ、業務の棚卸しからツール選定・導入、生成AI活用といったデジタル化・DX推進を現場伴走型で支援してまいりました。その支援現場で切実な課題として浮き彫りになっているのが「サイバーセキュリティ対策」です。

直近でも、国内Webサイトの多くで使われる「PHP」の重大な脆弱性発覚やWebシステムの不備を突いたサイバー攻撃が相次いでおり、警察庁の報告（2026年上半期 ※）ではランサムウェア被害の64.2%を中小企業が占めています。さらに2027年3月には経済産業省の「SCS評価制度（サプライチェーン強化に向けたセキュリティ対策評価制度）」の運用開始が予定されており、セキュリティ対策の不備は自社の事業停止だけでなく、取引先まで巻き込んだサプライチェーン全体の信用・信頼に影響を及ぼす時代に入りました。

中小企業ではセキュリティ対策への着手が急務となる一方で、現場からは「自社のどこにリスクがあるか分からない」「専門知識がなく何から手を付けるべきか分からない」「仮に診断を受けても、直すための専任人材も予算もない」との声が多く寄せられています。こうした課題を解決するには、「診断して終わりではなく、現場でセキュリティ対策を実装・修復まで伴走するサービス」が不可欠です。

そこでシードテックでは、攻撃者目線（レッドチーム）の高度な診断・リスク検知技術を持つNeoセキュリティと業務提携を締結し、中小企業のセキュリティ体制を構築する「デジショク・セキュリティ」の提供を開始いたします。

※ 警察庁「令和8年上半期におけるサイバー空間をめぐる脅威の情勢等」2026年9月（報告ベースの内訳）

「デジショク・セキュリティ」の概要・特長

「デジショク・セキュリティ」は、Neoセキュリティが持つ高度なAIリスク検知技術・専門知見と、シードテックが培ってきた「現場伴走型のDX実務力」を組み合わせた、中小企業のためのセキュリティ対策サービスです。

「無料セキュリティ診断」からスタートし、AIによるリスク調査やセキュリティ対策の専門家との月1回の相談機会提供、将来的な公的基準（SCS評価制度）への対応を行います。また、発見された緊急の課題に対しては、「デジショク」の実務人材が現場に入り込んで直接修復や設定変更を代行します。自社に専任担当がいない企業であっても無理なくワンストップで対策を進められます。

「デジショク・セキュリティ」サービス紹介ページ：https://seedtech.co.jp/digishoku/#security

「デジショク・セキュリティ」の提供プラン・料金体系（税別）

「デジショク・セキュリティ」は、企業の課題や現在の体制に合わせて、必要な支援を柔軟に選択・組み合わせてご利用いただけます。



●無料セキュリティ診断

社名とドメインをお知らせいただくだけで、インターネット上に公開されているWebやサーバーの弱点、漏洩が確認されたアカウント情報などを外部から調査し、数日を目安に、最初に対処すべき優先順位をご案内します。

●デジショク・セキュリティ

・AIによる毎月の外部調査

自社保有ドメインを対象に、既知の脆弱性やアカウント漏洩リスクをNeoAIが定期スキャンします。

・専門家による月次報告と月1回の打合せ

専門家が精査した月次レポートをもとに、オンライン打合せで次に取り組むべき対策を助言します。

・★3の自己評価に向けた準備

経済産業省「SCS評価制度 ★3」の取得に向け、現状の課題整理や自己評価の進め方を、月1回の打合せでアドバイスします。

●脆弱性の修復作業

即戦力型デジタル人材が貴社のチームに入り込み、診断で見つかった危険箇所の修復作業（パッチ適用、管理画面のアクセス制限、2段階認証の設定など）を実施します。

COMPARISON 他のサービスとの違い

デジショク・セキュリティと他サービスの対応範囲

外部調査のサービスは、月数千円から選べます。デジショク・セキュリティは、専門家の相談と、見つかった脆弱性の修復（代行）までを担います。

	デジショク・セキュリティ	X社 流出情報の監視	Y社 外部診断ツール	Z社 攻撃対象領域の管理	国の実証事業 中小企業向け支援	セキュリティ顧問 相場の目安
外から狙われる入口を見つける	✓	—	✓	✓	—	—
古いソフト・既知の弱点を見つける	✓	—	✓ 毎日	✓ 週1回	—	—
漏れたID・パスワードを見つける	✓	✓	✓	○ 上位プラン	—	—
専門家の報告と、毎月の相談	✓	○ 週次報告書	○ 自動レポート	○ 通知・窓口	○ 改善計画書	✓
SCS評価制度 ★3の準備	✓	—	—	—	✓	○ 一部
見つかった脆弱性の修復（代行）	○ デジショクの追加で対応 ＋月20万円	—	—	—	○ ツールの導入	—
月額（税別）	10万円〜	約5万円	約0.4万円	約4.5万円 上位プラン 約7.5万円	無償 2027年9月まで	5万円〜

✓ 対応　○ 一部のみ・上位プランで対応　— 記載なし

※ 各社の公式情報・報道などの公開情報をもとに、当社が作成しました（2026年11月時点）。各社の価格は公開されている最小構成の目安です。セキュリティ顧問は、公開されている事例から当社が置いた目安です。

代表者コメント



シードテック株式会社 代表取締役社長（ギークス株式会社 取締役） 高原 大輔

当社はこれまで『デジショク』を通じ、中小企業の現場にデジタル実務のプロが入り込み、目の前の業務改善からツールの定着、生成AIの業務活用までを一貫して支援してまいりました。その中で強く実感したのは、DXを進めようとする企業ほど、比例してサイバー攻撃のリスクに直面し、また取引先からのセキュリティ要求にも直面するという現実です。このたび、攻撃者の視点を知り尽くしたNeoセキュリティ社と提携したことで、中小企業が抱える『専門人材がいない』『何から手をつければいいか分からない』という悩みに、手軽な診断から現場の実務修復までワンストップで応えられる体制が整いました。中小企業が安心してデジタルを活用し、持続的な成長を実現できるよう全力で伴走してまいります。



株式会社Neoセキュリティ 代表取締役 高岡 哲也

1995年大阪府出身。神戸大学大学院を修了。学生時代から神戸のベンチャー企業でセキュリティエンジニアとして勤務し、国内企業に対するセキュリティ製品導入やリスクアセスメント等、幅広いセキュリティ業務を経験する。大学院を修了後、外資系コンサルティング企業にて、レッドチームオペレーション等のセキュリティ評価業務を軸に、企業のセキュリティ態勢高度化に向けたコンサルティング業務を担当する。その後、独立し現法人を設立する。

大手金融機関や重要インフラのレッドチーム（攻撃者目線での侵入評価）に携わってきた経験から、攻撃者が狙うのはサプライチェーン上で対策が手薄になりがちな中堅・中小企業の公開資産や脆弱性、漏洩した認証情報であると痛感しています。これらを防ぐために必要なのは、高価な専用製品を買い揃えることではなく、『外から見えるリスクを継続的にモニタリングし、優先順位をつけて着実に塞ぐこと』です。現場密着でDX実務を推進するシードテック社と協業することで、当社のAIリスク検知技術と専門家の知見を無理のないコストで届け、日本の中小企業のサイバーレジリエンス向上に貢献してまいります。

会社概要

会社名：シードテック株式会社
本社住所：東京都渋谷区渋谷2-24-12 渋谷スクランブルスクエア39階（WeWork内）
代表取締役社長：高原 大輔
事業内容：DX・AI 人材育成、DX・AI コンサル、IT人材ソリューション、受託開発
Webサイト：https://seedtech.co.jp/
「デジショク・セキュリティ」サービス紹介ページ：https://seedtech.co.jp/digishoku/#security

会社名：株式会社Neoセキュリティ
本社住所：東京都港区浜松町2-3-8 WTC annex 11-12階
代表取締役：高岡 哲也
事業内容：AIセキュリティサービス、セキュリティ人材支援事業
Webサイト：https://neosecurity.co.jp/

会社概要		
	会社名	ギークス株式会社
	本社住所	〒150-6139 東京都渋谷区渋谷2-24-12 渋谷スクランブルスクエア 39階（WeWork内）
	事業内容	IT人材事業（国内）、IT人材事業（海外）、Seed Tech事業
	代表取締役CEO	曽根原 稔人
	Webサイト	https://geechs.com/

本件に関するお問合せ先
ギークス株式会社 広報（pr@geechs.com）